



野庭すずかけ小だより

10月号

横浜市立野庭すずかけ小学校
2026(令和8)年9月30日
TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nobasuzukake/>

がっかりしない 完璧なんて求めない

校長 船山 道太

ある日、原稿用紙の正しい使い方を聞かれた。こうじゃないかと答えてみたが、よく調べてみると見事にはずれていた。その日、AI に子ども向けのポスターを生成してもらい、配った。なかなかいい仕上がりだと満足していたら、「ポテト」の文字が「ボテト」とか「ポチト」になっている。あらら、私には、イラストしかみえていない。今の精一杯で、まだまだだ。この日も、へこむには十分な材料があった。

自分が開き直ってみせる前に、あらためて思う。子どもたちは、毎日のように新しいことに取り組んでいて、とにかく がんばっている。子どもって、えらい。

私は、すずかけの子どもたちをみていて、いつも すごいと思う。子どもたちも、先生たちも、よくがんばっているようにみえてしかたがない。具体的にあれ、これ、というのはあるけれど、その連続だ。私には、ほめることしかできない。どんなことが「すごい」と思うのか。子どもたち自身に聞いてみたい。どう答えるのだろう。

子どもたちは、がんばっている。自分で自分を「えらいね」って、ほめてほしい。ついでに、「あなたも、えらいよ」なんて、だれかをほめてあげたら、ここはますますいいところになる。一見、がんばっていないようにみえても、実は、がんばっていることって、けっこうあるものだ。

野庭すずかけ小には、「かかわる」のが上手な子どもたちがいる。人と何かをする力というのか。人に勇気と自信を与えるフォローワード。「われら仲間」みたいなよさがある。子ども同士で学び合い、成長できる子どもたちだ。これは、ものすごい強みだ。大人とのかかわりにも、期待をもたせてあげたい。

大人は、がっかりしているようすを見せないことって、大事なんじゃないかと思う。成績やなんかで、上がりっぱなしとか、下がりっぱなしというのはあまりない。何事も、初めは、初心者。

うまくいなくて叱られる、がっかりさせることで、それは苦手、もうやりたくないと決めてしまいうらしい。子どもたちとのかかわりの中では、がっかりしないぐらいのほどほどの期待でよいのかもしれない。叱られたり、がっかりされたりするくらいだったら、はじめからやらない方がましになる。

うまくいかないことや失敗をすることは、子どもの特権にしたい。失敗するのをみられたっていいじゃない。子どもは、とにかく、失敗していい。結局、できなくたっていい。そんなに急がせて、どこにいく。一生懸命にやる姿がいい。粘り強い姿に応援がつく。うまくいかないから、次はこうしようとか、今日はできなかったけど、またチャレンジしてみたいな。それで、十分。大人が助けてくれる。そんな大人になりたい。完璧なんて求めない。大人を信じて育ててほしい。

不安や心配は、ある程度はあってもいいけど、溢れるほどにはいらない。溢れるのは希望や愛の方だ。子どもたちは、その中で、よくやっている。完璧なんて求めない。大事な命を燃やして、がんばって生きている。

家族は、かけがえがない。それでいて、距離が近すぎて、ぶつかることがある。ちょっと遠くから見ているおじいちゃん、おばあちゃんなら、ほどほどでいいじゃない、みたいなことがあるけど。学校も、子どもたち同士、担任の先生は、とても近い。この中で毎日暮らしているってことは、すごいことだと思う。

距離が近すぎると、言いたい放題にもなってくる。お互いいつまでも当たり前にいるもんだと勘ちがいしてくる。いつまでもいるさ。でも、それはだれにも分からない。明日だって分からない。だれかにやりたい放題、言いたい放題して気持ちがよくないことは、実はだれもが知っている。今日だけ、それは控えよう。人は、自分と同じように大切なかけがえのない存在だ。

そうしていくと、だんだんいいところになっていく。私も、ここを自分の居場所にしようと決めた。がっかりしない。完璧なんて求めない。